

第9回整備新幹線小委員会の概要

平成24年3月21日(水) 9:00~11:00

於：4階幹部会議室

○ 議事：「収支採算性及び投資効果の確認」に関するとりまとめ(素案)について

(中村委員)

- ・ 3.(3)の「総便益に計上されていない主な事項」については、冬季における交通の安定についても入れてはどうか。
- ・ 4.(2)の青函共用走行区間の速度向上は、見通しをつけるにあたって必要となる具体的な取り組みを記載してはどうか。「速度向上に向けた技術的課題の検討や列車制御面での検討を行う」等、これまでの議論を踏まえた内容を入れてほしい。

(廻委員)

- ・ 4.(3)にある「現時点では想定が困難な要素」についても具体的な内容を挙げた方がわかりやすいのではないかと。速度向上やLCC等。
 - (潮崎施設課長) LCCについては、一例としてスターフライヤーが2006年に羽田 - 北九州間に就航した際の変化を、旅客地域流動調査をもとに調べたのでご報告する。結論としては、就航した年はほんのわずかに鉄道利用者は減ったが、現在はむしろそれ以前よりも増えている。この実績を鑑みればLCCの影響はそれほどないと思うが、考慮すべき事項であることは確かなので、記載したい。
- ・ 5.(2)の「地域の創意工夫」についても、地域住民や地場企業等にとっての駅の使い勝手等、具体的な事例を挙げてはどうか。今の文章では、従来型の地域活性化の取り組みを超えないものに見える。役所の機能を入れるとか、保育園や大学を入れるとか、商業施設を建てる以外にも様々な使い方がある。
 - (家田委員長) 「従来の新幹線駅整備の考え方から脱却した」「地域の実情に合わせた」等の書き方がありうると思うが、事務局で検討していただきたい。

(須田委員)

- ・ 総括(1)は「走行耐久性や車両・線路の保守性『等』」とした方がいい。今後のいろいろな技術的課題に対応するということを示すことができる。
- ・ 3.(1)に記載してある所要時間は、内容の定義と比較対象の前提条件を明確にすること。
 - (施設課長) シンボリックに最速の時間を入れている。
 - (家田委員長) 需要予測の設定と混同しないように、注記をお願いする。

(兵藤委員)

- ・ 5.(1)の「制度的…な制約要因」の意味するものは何か。
 - (施設課長) 全国新幹線鉄道整備法に基づく整備計画で最高速度を260km/hと定めている。
 - (家田委員長) 「法制度的」と書いてはどうか。
 - (兵藤委員) 具体的に法令の名前を書けるなら、書いてはどうか。
- ・ 参考資料のp.18の現在価値化のイメージは図が間違っているので正しく直すこと。
- ・ 参考資料には財源スキームの図も記載してほしい。

(岩倉委員)

- ・ 2.(1)には「予測条件は、いずれも輸送量を低めに見積もる条件設定」とあるが、すべての条件設定が安全側なわけではない。私のイメージとしては90%が安全側という感覚。「いずれも」という表現は「多くは」「概ね」等の表現にしてほしい。
- ・ 5.(2)については、主要な地域との駅へのアクセス性を高めることが重要なので、「新幹線の駅が

地域活性化に貢献していくためには、従来以上の駅アクセス性の向上を目指すべきである」と書いてはどうか。

→(家田委員長) その前段に「高速道路等の整備も進んできている中での新幹線の整備であることを念頭に…」とあるので、そこに「アクセス性」という言葉を書きこんではどうか。

(家田委員長)

- ・ 3.(3)にある「多重防御の一翼を担う」という表現。世間で使われている「多重防御」は二線堤等の空間的な多重の防御を意味する場合が多く、ここでの意味と少し違う。例えば、「新幹線ネットワークが耐災性信頼の向上の一翼を担う」等の方がより正確ではないか。そこに冬季の安定性等も入れてはどうか。
- ・ 参考資料の p.21 は現在の特急の速度も入れてほしい。
- ・ 参考資料の p.24 はコスト縮減の実績の一覧表等を載せられないか。ここは、過去の実績を挙げることで、そういうことができる組織であることを理解してもらおうのが目的。

(中村委員)

- ・ 参考資料にも青函共用走行区間の速度向上に向けた取り組みを記載できないか。
→(施設課長) 本文の修正と合わせて検討する。

(須田委員)

- ・ 3.(3)の「外国人旅客の取り扱い」という言葉はもう少し丁寧にできないか。
→(家田委員長) これはそもそも今後の継続的見直しの1つに置くべきではないか。規模からいっても最高設計速度に並ぶ議論ではない。
→(施設課長) 5.(3)における想定が困難な要素に位置付け、表現についても「訪日外国人旅行者の増加」等に見直す。

(奥田国土交通副大臣)

- ・ このとりまとめをするにあたっての、フリーゲージトレインに対する JR 西日本の受け止めはどうなっているか。
→(久保鉄道局長) JR 西日本にはこの小委員会の中でもヒアリングを実施しているが、政府・与党確認事項に従って沿線地域も含めて今後意向確認を行うことになる。
→(家田委員長) 小委員会でのヒアリングでは、「まだ確認しなければならないことはいくつか残っているが、それができるという前提であれば導入した方がいい」という感触であった。

○ 議事：今後の進め方について

(家田委員長)

- ・ 今日頂いた意見については事務局で検討し、その結果を指摘された委員に確認していただくこととする。
- ・ 最終の文言については、私と事務局で詰めたい。

(施設課長)

- ・ 本日欠席の竹内委員、山崎委員には事務局からご意見を伺い、反映させることとしたい。

(了)